

早め早めの対応が被害を少なくする

9月7日(月)、生徒のみなさんは臨時休校でしたが、先生たちは学校で仕事がありました。朝6時頃、台風通過後の校舎被害状況確認を行いました。校舎内外とも大きな被害はありませんでした。ただ、スクールバス駐車場に重りをつけて置いていた三角ポールがかなり遠くまで飛ばされ、破損していました。また、給食センター駐車場付近には栗の木の大きな枝が折れて落ちていました。大人が引きずってようやく動く大きさでした。あたりを見回しましたが近くに栗の木はなく、どこから飛んできたのかわかりませんでした。暴風警報が南阿蘇村にも発令されていましたが、台風の威力を感じました。ニュース等で「事前の対策と、避難を！」と報じられていたように、今回の台風10号に対しては多くの人が早め早めの対応を取りました。それでも被害に遭われた人も多くいらっしゃいます。お見舞い申し上げます。ただ、全体的な被害が予想より少かったのは防災意識の高まりのおかげだと思います。新型コロナ対策により、当初予定されていた避難所数では足りず、追加開設しなければならなかったという新たな課題も見えてきましたが、これからも、災害発生時には「命を守る行動」をためらわずに実践できるようにしなければと思いました。



(重り5個でも飛ばされました)

まだ〇〇、もう〇〇？

先日、学習(学力調査)や進路に関する会議に出席しました。12月に実施するテスト等について話し合いましたが「子どもたちの夢の実現のためには、学校での学習の工夫と家庭学習の充実を今から始める必要がある」と熱心な議論になりました。現在9月ですので「まだ3ヶ月ある」と考えるのか「もう3ヶ月しかない」と考えるかの違いです。

今年は新型コロナウイルス対応で休校が長く続いたり、第2波がやってきたり、冬場になりインフルエンザと併せて第3波が来るという予測が出たりと先が見通せない状況です。台風のところでも書きましたが、早め早めの対応を取れたが良いと私も思いました。



(9月10日(木)の6時間目の授業の様子)

本校でも中間テストが9月24日(木)から始まります。今日から数えてテストまであと13日です。「もう13日しかない」と考えて家庭学習や授業等での質問を頑張ってください。

代議委員会の実践です

9月1日(月)に専門委員会がありました。そこで各委員会が活動について話し合いました。今回は代議委員会の活動紹介をします。「よりよいクラスをつくろう!!」を合言葉に次の3項目を評価し、チェックシートに記録していくそうです。

- ① 2分前着席ができているか？
- ② 1分前黙想がきちんとできているか？
- ③ 授業態度は良いか(寝ている人はいないか、先生の話をきちんと聞いているか)？

代議員がA～Cの3段階で評価します。先生たちにさせられるのではなく、自分たちでできる南阿蘇中生は素晴らしいと思います。「一番良かったクラスを表彰する」ということです。意識が高く、実践できる人はどのクラスにもいますが、全員できるとなると声かけや協力が必要です。今でも「よいクラス」かもしれませんが、「よりよいクラス」になるように頑張ってください。

新型コロナウイルス感染症に関わる文部科学大臣からのメッセージ



保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月
文部科学大臣 萩生田 光一